



猟友会によって捕獲されたクマ

る筆者にとって、2025年のクマによる人身被害は、身の毛がよだつ自分事。実際、

AI(人工知能)に気象情報や学ばせキノワグマが出没しやすい場所を見える化し

生活に直結する クマ被害



先日、山形村の商業施設駐車場で、まだ幼いクマが捕獲されたのは記憶に新しい。
秋に限らず、山菜やきのこを求めて入山する
今年9月中旬には、何十回と通った山中の車道でクマに遭遇している。幸いこちらは車の中。距離も20m程はあったことに加えて、車のエンジン音を恐れて逃げる健全なクマであったため、実害はなかったのだけれど。
秋の行楽シーズンを目前に、全国的なクマの被害は観光資源への影響も計り知れない。



令和7年11月1日現在

世帯数	: 928世帯
人口	: 1602人
男	: 761人
女	: 841人

た、「クマ遭遇リストマップ」を開発した日本気象株式会社、登山をするおおよそ3600人にアンケートを実施。その結果、各地で相次ぐクマ被害を受けて、半数の人が「登山の計画に影響があった」と答えている。このうち6割を超える人が行く山を変更して、計画自体の中止や延期を決めた人もいた。また、最近では市街地での被害も多く出ていることから、8割ほどの人は不安で慎重になったり、登山をためらったりしているようだ。
先にも申し上げた通り、筆者自身、山に入るし何なら今だって、すぐにでも晩秋のきのこを探し回りたい。長年、わりと軽装で身軽に山へ通ってきたけれど、今では服装からクマ対策の装備品までぬかりない。きのこ仲間や猟友会の方と情報交換もすれば、「クマ目撃アプリ」もチェックする。それでも、いざ目の前にクマが現れた時を想像すると、安易に山へは入れなくなってしまう。

知られているように、猟友会の高齢化が進み、筆者の知る方は60代半ばで最年少だそう。他の先輩ハンター達は、豊富な知識と経験を持つていもの、力仕事の担い手が不足すると、仕留めた後の処理も容易ではないと言う。
2011年から小諸市で始まった「ガバメントハンター」などの成功例もある。山や野生動物の知識を持つ専門家の公的な配置や猟友会との連携など、松本市の積極的な対策を期待したい。

第二地区 敬老祝賀会

9月19日金曜日午前10時から、Mウイング6階ホールで、令和7年度第一地区敬老祝賀会が開催され、100人が参加して盛大に祝いました。

全員でラジオ体操をしてからだをほぐした後は、春風亭昇也師匠の落語で大笑い。おいしいお弁当に舌鼓を打ち、旧交を温めました。

今回は、地域の企業・商店の協賛を得て豪華賞品の当たる抽選会を実施、一喜一憂の楽しいひとときを過ごしました。

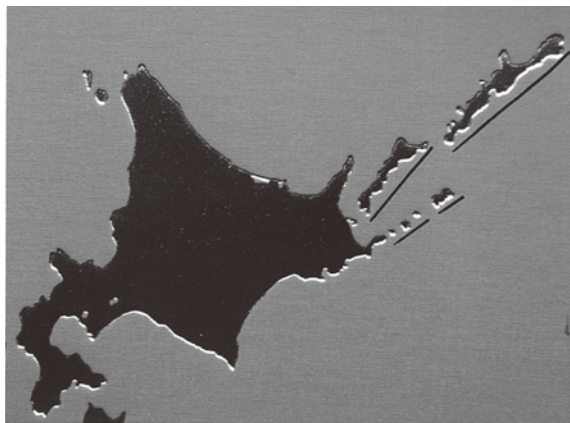


繰り返す戦争を憂う 私たちの身近に迫る影響

2022年2月24日の未明、ウクライナを包囲していたロシア軍が突如侵攻を開始し、戦争がはじまりました。もう3年9か月が過ぎましたが、まだ続いています。その為多くの国々や人達が燃料価格の高騰で打撃を受け、またいろいろに波及し甚大な影響を受けています。日本でもいろんな物品が値上がりし、特に食料品がひどくエンゲル係数が上がりました。

ロシアのウクライナへの軍事侵攻は、20世紀のナチスドイツや日本の軍国主義と似ています。このような歪んだ軍事行動は以前にもあり、第2次世界大戦終結時の旧ソ連の行動がいかに理に反しているかと言うと、日本がポツダム宣言を受諾して戦争を終結すると承諾したのが1945年8月15日で、敗戦を受け入れました。これに対してソ連が日ソ中立条約を一方的に破り、日本に宣戦布告したのが8月9日で1週間前の駆け込み参戦でした。スターリン首相は16日、米国のトルーマン

大統領にソ連が北海道の北半分に進駐したい旨を伝えましたが、トルーマン大統領は拒否しています。1945年2月のヤルタ会談でスターリン首相は対日参戦の見返りに、これまでの日本との戦争で失ったものは全て取り返すとルーズベルトとチャーチルに迫り、了解を取り付けています。またヤルタ会談での秘密協定に盛り込まれていた、ナチスドイツが倒れてソ連が対日宣戦布告するとの密約は、日ソ中立条約に違反しています。その密約で「北海道は我々の支配下」などの約束はありません。今のプーチン大統領はウクライナに対して歴史を都合よく解釈し、軍事的侵略戦争におよんでいます。そして今でも長年の懸案であります、日本の固有領土であります北方四島が戻ってきません。現在日本の隣国には専制国家が3国存在



日本固有の領土 北方四島（傍線部分）

しています。その国々との交渉ごとには、よっぽど用心してほしいと強く願っています。現在ロシアとウクライナの戦況は膠着し、一進一退の状態です。さかのぼってロシアは2014年にウクライナ南部のクリミア半島を併合し、またこの3年間で東部と南部の4州の大半を占領し併合を宣言しました。これはウクライナの領土の約2割にも及び、このような無法は許されません。力による現状変更を図る暴挙で明白な国連憲章違反です。ウクライナは、戦争前には約4100万人だった人口のうち500万人が国外に避難し、日本にも2000

人が滞在中です。それにしても停戦交渉が一向に進みません。トランプ大統領とプーチン大統領とゼレンスキー大統領、そして時には欧州関係者も入れ協議し、公正公平な結論を導き出し、早く戦争を終結してほしい。ほとんどの物品が値上がりし、世界中の人が大変な迷惑を被っています。

●ウクライナ侵攻前後の物価変動（例）

品目	2021年	2025年	上がり幅
ガソリン (レギュラー)	126.9円/L	169.7円/L	42.8円/L
卵 1パック (Mサイズ)	222円	296円	74円
小麦粉 (1kg)	254円	338円	84円

※物価上昇の原因すべてがウクライナ侵攻によるものではありません

先日、久しぶりに飯田市を訪れた。伊那くらいまでなら行くこともあるのだが、その先となるとあまり縁がなく、せっかくだからと早目に出かけて、市街地にできた川本喜八郎人形美術館を見学し、昼食は近くの飯田文化会館前の和食店で堪能し、午後には用事を済ませて帰宅した。

翌日のテレビのローカルニュースで目にしたのは、その文化会館と和食店の映像である。なんとクマが目撃されたという。松本に例えるならば、市民芸術館のあたりに出没したようなものだ。幸い人的被害はなく、クマも駆除を免れたようだが、この秋連日報道されるクマ被害の増加を身近に実感した。

かつて全国的に行われていたクマの定期的な駆除は、個体数の減少を理由に中断され、その後生息数は倍増したものの、一方で狩猟免許を持つハンターは高齢化などで減少しているものだから、頻繁に住宅地へ出没するようになってきた。秋田県で行われた自衛隊への派遣要請が、長野県でも現実化しないことを祈るばかりだ。

電車通り